

北海之光

9月号 北海道教区報

ハレルヤ 新しい歌を
主に向かって歌え
詩編 149 編 1 節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

『神様はいつも見ている』

帯広聖公会囑託

司祭 エリザベツ 阿部 恵子

私の住む牧師館の居間には、縦約二m、横約二・五mの大きなガラス窓がありま
す。それは園庭に面してはい
るものの、その大きさから東
西・南北を優に見渡すことが
出来、そこから見える景色は
三六五日、四季折々異なった
風景を楽しませてくれていま
す。加えて同じ空間には、あ
たかも窓からの世相をゆつく
り楽しめるようにとでも置か
れている、横約一・二m、幅
約六〇cmほどの座卓があつ
て、私はそこで、手紙を書い
たり、三度の食事をしたり、
聖書を読んだり、現在では
テーブルが生活の一部を成し
ています。また、そのテーブ
ルの奥中ほどには、友人から
頂いた『隠れたところにおら
れるあなたの父に祈りなさ

い』(マタイ六・六)との聖句
が書かれた小さな額縁を置
き、私自身に、あるいは、周
囲の人々に何か問題が起きる
ごとに、私は真摯に心の深い
所にいらつしやる方にお祈り
をするのです。

最近、私は心地良いこの小
さな祈りの場に居ながら、窓
から見える景色の中に、気に
なる二人の存在があることに
気づかされたのです。

「あなたがわたしを選んだ
のではない。わたしがあなた
を選んだ」と言われる神が、
もし「あなたとわたし」の一
対一の関係を構築する前段階
として、私達を俯瞰して観て
いるとするならば、私が現在
お二人の様子を静かに観てい
るその様子こそが、神が人知
れずなさっていることではな

いのかしらと「ふと」思うの
です。

その一人の方は、三〇歳前
後の女性で、〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇に所属し、雪の日に
は他の人のスペースをも排雪
し、毎朝、九時二〇分ほど前
に営業所の左端駐車スペース
に、濃いグリーンボディに
白い屋根の〇〇〇〇〇〇を駐車す
るのです。そして、五時二〇
分過ぎには退社します。そ
してもう一人の方は七〇歳過
ぎ、あるいは八〇歳に近いか
も知れない男性です。毎日
リュックを背負い、一二時
三〇分頃、東から北へと杖
を持ちながら元氣よく歩き、
一五時頃になると今度は北か
ら東へと元氣よく、伴侶らし
き方と時に会話をしながら、
園庭に沿い昼来た歩道を戻る
のです。私がお二人について
知り得ていることはこれが全
てです。勿論、お二人は私の
存在も観ていることも全く知
りません。

何故、神は私の小さな祈り
の場にお二人を連れて来られ

たのか分かりません。しかし、
その女性の一日の三分の一の
時間を費やすすぐ隣に、ま
た、ご夫婦で何気なく行き過
ぎて行く歩道奥には、たたず
む教会があり、神はすでに彼
らをご存知なのでしょう。お
二人を創造された神が微笑み
かけているように私には思え
るのです。そして、お二人に
も、現在もなお、絶えること
のない人間同士の争いにどれ
だけ神が心を痛めているかを
知って、お二人の周囲の人々
に、この世の苦しみを知らせ
て欲しいと願っていると思う
のです。「自分を愛するよう
に、隣人を愛しなさい」「わ
たしがあなたがたを愛したよ
うに、あなたがたも愛しあい
なさい」と言う神の声がこだ
まのように聞こえるような気
がします。

いつの日か、このお二人と
会話が出来るような機会が与
えられたら嬉しく思います。
また、世界の人々が穏やかで、
安心した日々が過ごせるよう
にお祈りしたいと思います。



—心の窓をひらく—

福音と私(二六二)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

苦小牧聖ルカ教会信徒

ルカ 高橋 賢 司



【私の好きな聖句】

イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それを祝福して裂き、弟子たちに渡しては群衆に配らせた。

ルカによる福音書九章一六節

私が初めて教会の門をくぐったのは、確か小学校一年生の時でした。当時は旭川に住んでおりましたが、近所に福音教会があり、友人と一緒に日曜学校に毎週のように足を運んでおりました。友人と一緒に教会に遊びに行くくらいに、気が持ち通っていたのだと思います。しかし、聖書を読んだり、賛美歌を歌ったり、イベントなどを通して子どもながらに何か惹かれるものがあったのかも知れません。ちなみに、一番思い出深いのは

聖句カードです。聖句の暗唱をしてもらえるカードでしたが、それを集めることが楽しみでした。当時の教会は子どもたちでいっぱいだったと記憶しています。

小学校三年生になって、会社員の父の転勤で稚内に引っ越しました。近くに教会はありませんでしたが、そこに通う友人数人いなかったせいなのか、教会に通うことはなくなりました。その後、四年生の秋に北見に転校し、大学卒業まで北見で過ごしました。

就職をし、最初に赴任したのが日高管内の様似町でした。そこで出会った女性と結婚をしました。七年間の様似町での生活の後、オホーツク管内の斜里町へ転勤。斜里町では八年間過ごしましたが、

そこで長女と長男が誕生しました。苦小牧への転勤が決まり、まず年少の娘の幼稚園をどうしようか考えることとなりました。田舎の小さな幼稚園からの転園のため、なるべく自然な形で新たな幼稚園生活を送らせたいと考え、引越し前にいくつかの幼稚園で入園相談をするために苦小牧へ向かいました。その時最初に訪れた幼稚園が、苦小牧聖ルカ幼稚園でした。とても温かく迎えてくださり、娘の状況にも寄り添い、とても温かい雰囲気を持った幼稚園であることを感じ、安心感を持ちました。他の幼稚園も訪問しましたが、迷うことなく聖ルカ幼稚園の入園を決めました。娘は斜里で仏様を崇拜する幼稚園生活を送っていたのに、引越しとともに、対象がイエス様が変わったことに戸惑いがあったのかはわかりませんが、とても伸び伸びと、毎日楽しい幼稚園生活を送ることができました。現在は、息子が年長で同様にお世話になり、幼稚園との繋がりが六年目となっております。

ところで、妻は趣味でゴスペルを歌います。地元の浦河町で活動を始め、斜里、そして、苦小牧でも仲間と共にゴスペルを楽しんでいます。イエス様との出会いは私の方が先だったはずですが、妻の方が身近に感じながら過ごしていたのかも知れません。ですから、苦小牧に引越して、妻はいつの間にか苦小牧聖ルカ教会の日曜日の礼拝に子どもを連れて出席するようになっていました。私は基本的に家で過ごし、時折愛餐会に参加するためにいくつらいものでした。二〇一八年に妻と子どもたちが洗礼を受け、妻は同年、堅信を受けます。それでも私は子どもの頃を思い出して聖書や聖歌に触れたりすることくらいでした。そんな折、昨年の年明け早々に体調を崩し、二ヶ月程仕事を休むことになりました。どうしてもかかわりませんが、強い力で教会に導かれ、気づけば主体的に礼拝に参加していました。仕事を休んでいた間は外出も難しい状況でしたが、礼拝には毎週参加で

きました。どうしてか聖餐式で聖書のみ言葉に触れる中で力がもたらえたり、背中を押してもらえた感覚がありました。松井司祭に洗礼について相談し、毎週のように平日の仕事終わりに教会で勉強会を行い、昨年九月に洗礼を受け、一二月のクリスマス礼拝で二人の子どもと一緒に堅信を受けました。

かれこれ一年になります。が、洗礼・堅信を受けて、特に変化はありません。ただ、洗礼前から教会の奉仕活動をさせていただき、新たな自分の家ができたような気がしています。気持ちの置き所と言いましうか、導かれし者が集う教会だから、安心できる場なのだと思います。

これから歳を重ねる中で、経験も増え、見方や価値観も変化すると思います。しかしながら、日々こうして生かされていることに感謝を捧げながら、信仰生活を歩んでいきたいと思っております。

常置委員会報告
第一〇回 八月一八日

《協議事項》

一、ランベス会議報告と協議に関する件。
・今後、様々の場で報告をおこなうことを確認した。

二、第九回U二六全国集会参加者補助に関する件
・前例にならない青年参加者に補助する事とした。
三、会計担当者会議に関する件
・一〇月八日(土)の開催に向け協議した。

四、秋季教役者会に関する件
・開催することを確認した。
五、定期教区会に関する件
・日程を、一月二二日(二三日)とした。
・書記長に上平更司祭、書記に三浦千晴聖職候補生を指名した。

六、宣教一五〇周年に関する件
・記念事業の計画全体像を教区会で報告する方向で準備を進めることを確認した。
七、「信仰デザインノート」に関する件
・参考資料が出来、提出された内容を確認した。
八、札幌聖ミカエル教会牧師館取得に関する件
・牧師館のために隣地並びに建物を取得する事を承認した。



主教室から

ランベス会議の期間中、英国聖公会ロンドン教区サラ・マラーリ主教と南インド教会ナンディヤール教区プシュパ・ラリサ主教の呼びかけで女性の主教たちの夕食会が開催され、わたしももちろん大喜びで参加して参りました。

一九九八年ランベス会議は、初めて女性の主教たちが参加した会議で、当時参加した一一名の女性の主教たちは、ランベス・イレブソンと今でも呼ばれています。そして前回二〇〇八年ランベス会議には一八名の女性の主教たちが参加し、

この度二〇二二年ランベス会議には、なんと九七名もの女性の主教たちが集まったのです。このことを、女性たちが一番驚き、そして出会えたことを共に喜び、神様に感謝しました。

食事会では三名の主教がそれぞれの教区での喜びや課題を振り返るといいうテーマで短いスピーチを担当し、その最初の一人としてわたしもお話をさせていただきました。最近扱手された一人として、自分の扱手の前後に生じた痛みの出来事や日本聖公会が未だ女性の聖職扱手について違う意見や立場があることを紹介しつつ、日本聖公会は未だプロセスの只中において、違

う意見であっても共に歩む共同体でありたいと願っていること、北海道教区の方々がたまたまその人が女性であったのだと励ましてくださることなどをお話し、北海道教区や日本聖公会のために祈ってほしいとお伝えしました。

わたしの経験や物語はそれぞれの困難を経験した主教たちの物語と響き合い、その後たくさん主教たちが祈りと励ましの言葉を掛けてくださったことは大変感慨深く、ありがたいことでした。
世界中の主教たちが、わたしたち北海道教区の新しい歩みのために祈ってくださいます。感謝です。
主教 マア・グレス 笹森 田鶴

堅信式受領
おめでとう

札幌聖ミカエル教会
ユリア 寺田由貴子
ヴェロニカ 土井 雅子
(八月二一日)

十 教区逝去教役者
記念聖餐式

一〇月二二日(水)
午前一〇時三〇分
於 主教座聖堂
次の方々を覚えて祈ります。

- 司祭 森 安 延 衛 一九四五年一〇月九日
- 主教 八 代 斌 助 一九七〇年一〇月一〇日
- 伝道師 笠 間 伊 太 郎 一九〇一年一〇月一五日
- 司祭 芥 川 寿 哉 一九七五年一〇月二〇日
- 伝道師 石 川 光 子 一九六八年一〇月二一日
- 司祭 江 口 博 二〇〇三年一〇月二二日

お詫びと訂正
八月号四頁ぶどうの枝よりの文章の中に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
誤 二〇二二年の宣教協議会
正 二〇二二年の宣教協議会



ランベス会議報告

二〇二二年七月二六日～八月八日開催

主教 マリア・グレイス 笹 森 田 鶴

第一五回ランベス会議がカナタベリー大主教の招集により、英国カナタベリーのケント大学を会場に一四年ぶりに開催されました。

昨年七月から世界の主教

たちはオンラインで対話をし、祈り合う関係の構築を重ねてきました。そして一六五カ国からの主教と配偶者、その他運営スタッフや通訳、礼拝・音楽、映像配信担当、ボランティアを加え、全体で約一五〇〇名規模の会議となりました。オンラインでの参加や視聴、SNSでの発信も積極的に行われ、誰もが会議にアクセスできたことは非常に特徴的でした。

今会議の全体テーマは、「神の世界のための神の教会―共に歩み、耳を傾け、証しする」です。会議を基礎づける聖書箇所はペテロ第一の手紙でした。会議当初のリトリートや毎日の聖書講義や小グループ

での豊かな分かち合いを通してペテロ第一の手紙を読み進めていきました。また、現代

の世界と教会を取り囲む主要な課題についての基調講演と協議が日々行われました。

今回は決議ではなく、ランベス・コール(呼びかけ)という文書によって協議内容がテーマ毎に提示されています。このランベス・コールはアングリカン・コミュニオンの今後一〇年間の方針に関わる重要な文書となります。これらが各教区で分かち合われ、具体的に各教区で取り組まれていくことが期待されています。

各コールは、次のような内容についてです。各教区が福音によって刷新され、福音を示す行動に邁進すること、すべての人、特に子ども、青年、弱い立場の大人の安全の確立を最優先にすること(セーフ・チャーチ)、教会が和解のミッ

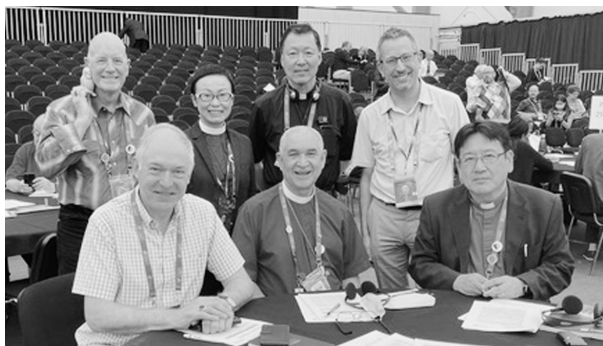
ションに立ち返ること、神の似姿として造られたすべての人の固有の尊厳と平等性を守ること、神の造られた被造世界の危機に緊急かつ大規模に対応し続けること、「宣教の五指標」を堅持し、人と地球のために持続可能で公正な共同体形成に尽力すること、教会の一致を押し進め、迫害されている信仰者のために声を挙げることで、他宗教と友好的関係を築いていくこと、キリストの弟子としてキリストの解放の道を選び、その道を学び直していくこと、科学の中に神から与えられた資源を見出し、その働きに信仰の知恵を提供すること、などです。それぞれのコールには現状分析と指針、具体的な提案が盛り込まれています。

この度の会議では、アングリカン・コミュニオンの長年の課題である、同性愛を公表している方の聖職按手並びに同性婚の祝福に関する意見の相違も含まれその展開が大変注目されていました。反対の立場の三つの管区が今会議不

参加という厳しい現実があり、反対の立場の主教たちが意見表明のために聖餐式の陪餐を拒否するという出来事がありました。当事者がいるところでの陪餐拒否は、大変残念で、また心痛い出来事でした。

この課題に関する「人間の尊厳」についての協議では、カナタベリー大主教のメッセージと共に、コール文案が提示されました。ジェンダーやセクシュアリティに基づく偏見は人間の尊厳を脅かすものであることを述べつつ、一九八八年ランベス会議決議一〇により同性同士の結合の正当性または祝福を認めない管区と、慎重な神学的考察と受容の過程を経てそれらを祝福し歓迎している管区があることが事実として併記され、「我々は主教として、最大限、耳を傾け、共に歩んでいくことに責任的に関わり続ける」と続いています。参加した主教たちは、未だ矛盾や痛みを抱えつつも、その場に留まり共にいる道を選び、

このコールに賛同しました。ランベス会議はこれからもオンラインなどで続いていきます。世界の課題は私たちの課題でもあることを覚え、多岐に亘るこのランベス・コールを少しずつでも皆様と分かち合い、一五〇周年を迎える北海道教区の課題と照らし合わせながら、取り組めることについて話し合っていきたいと願っています。また、このランベス会議へ北海道教区の皆様から祈りとお支えによって送り出してくださったことを心から感謝しております。



シノドス第一六回通常総会にちなむ合同礼拝

―とともに歩む教会のため―

報告 司祭 クリストファー 永谷 亮

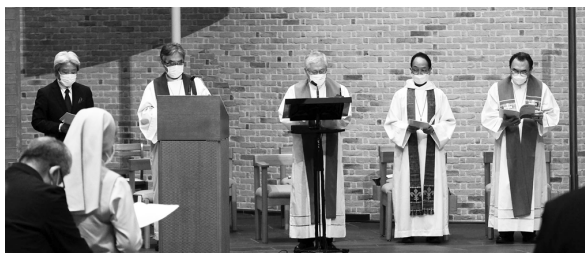
二〇二二年七月二一日(木)、カトリック麹町(聖イグナチオ)教会主聖堂で、標記の合同礼拝が行われました。この礼拝は、ローマ・カトリック教会が「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教」というテーマのもと、二〇二一年一〇月から二〇二三年一〇月開催の「世界代表司教会議(シノドス)第一六回通常総会」のうち、各国の司教団が提出する報告書に、このテーマに関してキリスト教諸派からの意見聴取の結果を盛り込むことが求められているもので、それを受けて日本聖公会、日本福音ルーテル教会、日本キリスト教協議会(NCC)の代表者が提言を行い、合同礼拝はその提言がなされた同日、三教派・一団体によって行われました。日本聖公会と前述三団体も例がなく「教会一致運動」

二〇二二年七月二一日(木)、カトリック麹町(聖イグナチオ)教会主聖堂で、標記の合同礼拝が行われました。この礼拝は、ローマ・カトリック教会が「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教」というテーマのもと、二〇二一年一〇月から二〇二三年一〇月開催の「世界代表司教会議(シノドス)第一六回通常総会」のうち、各国の司教団が提出する報告書に、このテーマに関してキリスト教諸派からの意見聴取の結果を盛り込むことが求められているもので、それを受けて日本聖公会、日本福音ルーテル教会、日本キリスト教協議会(NCC)の代表者が提言を行い、合同礼拝はその提言がなされた同日、三教派・一団体によって行われました。日本聖公会と前述三団体も例がなく「教会一致運動」

において画期的な催しとなりました。礼拝に先立ち、前田万葉枢機卿は「一致に向かって歩む私達に注がれた神の恵みに感謝するとともに、今後も対話を通じて、聖霊の導きによって共に歩み続けることができよう心を一つにして祈りましょう」と挨拶されました。菊地功東京大司教はシノドスとそのテーマが世界、社会、人びとにどのような意味を持つのかに触れ、「この地にあって、イエス・キリストの福音を述べ伝えるために遣わされている私たち一人ひとりには一つの洗礼によって結ばれた異なる信仰告白を持つ兄弟姉妹であります。私たちの信仰は神の民という共同体の信仰です。一つのキリストの体に結ばれた共同体の信仰です。私たちの信仰はその共同体における交わりのうちにある信仰です。互いの交わりの

中で共に旅路を歩み、共にこれまでの旅路を振り返り、そして共に支え合いながら福音をこの日本の地で証してまいりましょう」と説教されました。礼拝では同じ「主の祈り」を唱え、菊地功司教の詩・曲でもある聖公会聖歌集五一七「主が来られたから」がイエスのカリタス修道女会スモールクワイヤによって奉唱されるなど、合同礼拝の多様性に満ちた祈りとなりました。

(※提言と合同礼拝の動画はカトリック中央協議会のHPより視聴できます)



左より/NCC議長 吉高叶牧師、日本福音ルーテル教会 総会議長 大柴譲治牧師、カトリック大阪大司教 前田万葉枢機卿、日本聖公会 東京教区 高橋宏幸主教、カトリック東京大司教 菊地功司教 写真提供/日本福音ルーテル教会 李明生牧師

三年ぶりのキャンプ

北海道教区GFS支部長
セシリア 小澤暢子

コロナ禍で実施できずにいた有珠キャンプ。行動制限がなくなり、花火大会やお祭りが戻ってきた今年は、いよいよ有珠に行くか!という思いも強くなってきました。さすがに一泊してくるのはまだ早い。そうリーダー会で話し合い、日帰りのデイキャンプというかたちで七月二十九日実施に踏み切りました。

各教会に参加を募ったところ、四五名余の申込みがあり、小学四年生以上は、子どもだけで参加、それ以下は大人同伴が原則です。親子、おじいちゃんや孫たち。そんな参加



者が多かったのが今回のキャンプです。

当日は、感染対策に心がけ、バスの中で開会礼拝。有珠の教会でグループごとに分かれて時間差で礼拝堂に入りウクレライナの祈り、ランベスの祈り、JOCSSの祈り、GFSの祈りをお捧げしました。

遠浅で割と安全な有珠の海、気温も高く、水もぬるく、最高のコンディションでした。短い時間でしたが、本当によく遊びました。高校生たちが小さい子たちの面倒を見て、それを若者たちが見守る。そして、神様が、すべてを見守ってくださっている。長い間続けてきたGFSのキャンプの光景が戻ってきたとうれしく感じるひとときでした。

食事担当のリーダー達は、暑い中大忙し、参加者のためにいつも奉仕してください。無事三年ぶりのキャンプができたこと感謝しています。

神様、見守ってくれてありがとう!



▽釧路聖パウロ教会
▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)

今年夏の釧路は異常でした。観測史上最高温度を記録した一方、暴風雨警報や本州の梅雨のような長雨。礼拝堂はこの異常気象に耐えられず、雨漏りが何度も発生しました。教会の建て替え問題が現実味を帯びて来ています。

ただ、信徒達は異常気象やコロナ第七波の高止まりにも、元氣そのもの。礼拝に訪れる人数もコロナ以前とあまり変わりません。換気などの対策が効果的なのかもしれません。

聖歌の斉唱も短縮版からコロナ以前のフルバージョンに戻りつつあります。

聖霊降臨後第一主日礼拝後に開かれたオリープ会では荒井委員から感謝箱献金について、歴史や届け先など、詳しい説明があり、新しい知識を得ることが出来ました。

「大雨」の予報もあつた翌週、恒例の墓地礼拝。吹雪で殉教した水科五郎伝道師記念碑、紫雲台墓地、そして一七名の信徒が納骨されている北斗霊園の墓前で礼拝。一〇数名が参加しました。礼拝を捧げている間だけ雨がピタッ！「奇跡的」とも言えるフシギな現象でした。神に感謝。

▽岩見沢聖十字教会

八月は『平和』を覚える月です。福音ラジオ放送ホレンコにて、上平更司祭が平和について語られる。心に染みる一言々に耳を傾け最後は「アーメン」と唱える。

今夏も園庭講師二名をお招きしての遊具の補修と作製の職員、保護者による暑い中での二日間の作業が無事終了。園児の喜ぶ姿が楽しみです。二一日、逝去記念礼拝。旧美唄・岩見沢の逝去者の氏名

を読み上げました。美唄の逝去者名簿は墨字書きの立派な巻物。正岡久子姉に氏名に振り仮名を記して頂きました。

▽帯広聖公会

帯広の八月は十勝晴れのカラツとした日が続くところですが、今年は雨天が多く、本州の梅雨のようなじめじめ蒸し暑い日が続きました。しかし、その暑さも少しずつ和らぎ、秋の訪れを感じています。

一四日は、初めて笹森田鶴主教を帯広にお迎えしました。主教は礼拝の中で、直近にご参加されたランベス会議の話題にも触れ、今後向かうべき方向を示唆されました。その後、ささやかではありますが、茶話会を催し、笹森主教を囲み、楽しいひと時を過ごしました。

▽稚内聖公会 (伝道所)

八月二十八日(日)、道北四教会合同礼拝(主教巡回日)が笹森主教様をはじめ一四名の参加で行われ、道北分区の皆様さんとともに恵みに与りました。当日の信施は「エベコロベツ自給の村」と「稚内聖

公会の宣教」のために献げられました。前日には笹森主教様による「主教アワー」があり、ランベス会議の模様のほか世界の聖公会の豊かさや課題について学ぶ機会となりました。また、久しぶりに教会で夕食も共にできたことも感謝です。皆さんの奉仕で教会の清掃も行われましたが、建物への損傷や劣化も見つかり、対処が必要となりそうです。

▽函館聖ヨハネ教会

函館の大ニュースは、藤井司祭の入院です。ランベスから帰国した主教様が日帰りでお来函され、塗油の祈りをしてくださり感謝です。司祭の留守を守るべく、週報作成を申し出てくださる方、広い境内の芝刈り、草取りに精を出してくださる方、み言葉の礼拝では奨励を引き受けてくださる方、ご家族に寄り添って助けてくださる方、毎主日の礼拝を滞りなく行うために、皆で力を合わせています。週報の片隅に「藤井先生からの声」というコーナーがあり、ちよつと心が和みます。そんな中、聖書輪読会が再開しました。来月の初めには聖堂コンサート、中旬にはバザーも予定しています。すべてが神様のご計画通りになりますように祈ります。

▽網走聖ペテロ教会

八月教会の周りは、コスモス・朝顔が沢山開花。一四日の全逝去者記念礼拝に、斜里の山本寿子姉が道外在住の御長男御長女に付き添われ出席し、聖餐を受ける。朝に

あの子ども達も献花のお手伝いをした午後の墓地礼拝は、久々の方々との出会い交わりに恵まれる。飯野司祭は礼拝後、桂町・新墓地・市合同墓全ての墓前で祈られる。長く会計を担当して下さった森谷ツギ姉が、九日に呼人の施設に入所。七日と前週二週続け標準在任の御長女と共に、みことばの礼拝に出席。全てに感謝。

▽平取聖公会

平取は七月の梅雨明け後も不順な天候が続き、特産のハウストマトの出荷量も品質も不調です。選果場で働く方の

送迎バスも夕方早くに帰って来ます。

八月に入って、平取町のアイヌの行事に参加された山本さんと仰る婦人が訪ねてくださいました。この方の大伯父さまが故上田一良主教であるとのこと、お嬢さんを伴ってくださいました。このように、年間幾組かのお客様がバチラー宣教師や八重子さんや、ゆかりの教役者の消息を尋ねて訪問してくださいます。お客様にお渡ししていた一三〇年記念誌も在庫が無くなりました。

バチラー保育園改築の入札期日が決まりました。
▽札幌キリスト教会
『暑い』というより『蒸し暑い』今夏。コロナ感染予防の一環で、聖歌は歌わず奏楽のみの礼拝が続いています。飲食は全て持ち帰りのみとなりますが、三年ぶりのバザー開催に向け準備中。また、創立一三〇周年記念誌『十年のあゆみ』の発行に向け、教役者や各団体・個人への原稿依頼・執筆等も着々と進んでいます。

ます。二八日、教会前もコースになつてはいる北海道マラソンが行われ礼拝後、声援を送りました。三〇日・三十一日、来訪されたプール学院の修学旅行生と共に夕の礼拝をお捧げしました。
▽札幌聖ミカエル教会
八月二日は初めての主教様の巡回日。この日、ユリア寺田由貴子さん、ヴェロニカ土井雅子さんが堅信のお恵みにあずかる。おめでとうございませう。同日礼拝後、臨時の堅信受領者総会を行い、隣地の故吉井頼子さんが住まわれた土地建物の取得を可決、牧師館にひとつの目途が立ちました。今年も八月はすべての日曜日に逝去者を覚えてお祈りを捧げる。二〇日、吉井頼子さんの埋葬、二八日は三澤司祭ほか五名の方々の埋葬式を円山墓地にて行う。日曜学校は二学期が始まるも、まだ礼拝のみのため若干名の出席。幼稚園では園庭に新たな遊具の設置工事を行い、九月からの使用を楽しみにしています。

▽新札幌聖ニコラス教会

八月は日本中の人の流れに倣って、それぞれに家族、親戚との時間を大切にす時期として、教会では特別なイベントは設けず、落ち着いた月となった。礼拝では戦後七七年目を覚えて、世界平和のために思いを巡らし、祈ることが勧められた。来月九月二九日には三年ぶりに豊田渉平さんを招いてのギターコンサートを開催予定。一人でも多くの近隣の方々が教会の門をくぐられることを祈る。

▽聖マーガレット教会
八月七日、広谷和文司祭をお招きしての主日礼拝の予定であったが、新型コロナウイルスの拡大により延期とする。
教会前の道路工事が続いている中、作業員の方々が空き時間に教会駐車場の砂利ひきや草刈りをご奉仕してください感謝。駐車場の凸凹が酷かったが綺麗に補修されました。教会の掲示板も清掃をして書き換え、来月には教会横の長く伸びた木も伐採予定である。教会環境の整備が進んでおります。

三浦千晴聖職候補生は執事試験期間中なので、教会の皆で支えていきたい。
▽有珠聖公会
八月二八日、聖餐式を共に捧げる。礼拝の後、秋以降の教会行事について検討しました。一〇月一〇日に教会バザーを、一二月一〇日にクリスマス・コンサートを実施する事を決めました。この日、大町司祭は、室蘭聖マタイ教会・有珠聖公会に続いて今金インマヌエル教会の礼拝に向かいました。
▽留萌キリスト教会
八月は嬉しい出来事がありました。七日の主日礼拝に、千葉雅子さんが出席されました。自宅療養を続けておられたので、教会に足を運んだのは二年六ヶ月ぶりの事でした。一四日には主日礼拝に続いて教会墓地で逝去者記念礼拝を行いました。この日、七月二〇日に退院された藤井法さんが、ご家族と共に出席されました。お二人とも手術を経て快復の恵みを得て、共に

主の食卓を囲むことが出来た事に心から感謝いたします。風邪をこじらせていた小林栄子さんも、現在順調に快復中です。

▽紋別聖マリヤ教会
それなりに暑い夏らしい紋別でしたが、お盆を過ぎると朝夕は秋を感じさせる風がそよいでいます。七日、越山司祭による主日礼拝・聖餐式のあと墓地礼拝を行いました。年に一度の訪問で、今年も信徒たちで花を捧げて祈ることが出来て感謝でした。先月よりカナダに帰省していたジェームスも無事帰国し、レギュラーメンバーで礼拝をお捧げしています。二学期が始まった幼稚園では、依然としてコロナの影響が少なからずありますが、子どもたちは元気に登園しています。主に感謝。

▽新冠聖フランシス教会
八月一四日の礼拝は丁度お盆の帰省と重なり、久し振りに教会の三人がけ長椅子は満席となりました。司祭様は、新冠判官館墓地での墓前礼

主の食卓を囲むことが出来た事に心から感謝いたします。風邪をこじらせていた小林栄子さんも、現在順調に快復中です。

拝を八月一三日(土)、翌日一四日(日)は教会にて聖餐式の中で(逝去者記念礼拝)を行われました。そして、当教会の為に長きにわたりご奉仕くださった奥田貞子さんが、この日を最後に札幌へ転居することになり、さみしい限りです。教会での催しではいつも美味しい牛乳を届けてくださり、ありがとうございます。新しいお住まいにあっても良き出会いと交わりがありまますように、主のお導きと平安を祈ります。

▽室蘭聖マタイ教会

八月に入りコロナの感染が増加傾向、日々不安を感じております。二一日、苦小牧より松井司祭来会、白老の小林御夫婦もおいでになり、共に聖餐にあずかりました。礼拝後、各自持参した昼食を終え、一同望洋台に移動、庭山裕子さん合流。何年か振りの晴天に恵まれ墓地礼拝、先人を偲びつつ祈りを捧げました。

▽今金インマヌエル教会

八月一四日、二八日、上平司祭、大町司祭を迎え、礼拝を守りました。二八日、札幌より大町司祭来会、聖餐にあずかりました。礼拝後有珠へと向い、その後今金へ夜の礼拝に行かれると聞き、一日で三教会を廻られる大変さに頭が下がる思いです。無事札幌へ帰られる事を祈るばかりです。

▽小樽聖公会

八月一四日(日)、小樽聖公会逝去者記念聖餐式。小樽市内においてもコロナウイルス感染者が増えている中、聖歌を歌うことも控え、恒例の逝去者の名を読みあげること

▽深川聖三一教会

八月七日、教会委員会、保育園運営委員会、婦人会。一三日、納内墓地礼拝、平家渡辺家を巡礼。一四日、深川墓地礼拝、溝口家、寺岡家、林家、清水家、鈴木家、小林家巡礼、音江墓地礼拝、岡本家、樋口家巡礼。一五日、内園墓地礼拝。樋口本家分家、深沢家、河野家礼拝、丸山墓地礼拝、平家、高橋家、脇田

▽北見聖ヤコブ教会

墓地礼拝は八月七日。通常の礼拝の後、納骨堂へ行き、墓参の祈りを共に致しました。イスも三脚並び、日傘の花が咲く墓地礼拝、暑い中大変お疲れさまでした。二一日は教会委員会。主教巡回礼拝日程や教区への奉獻額等について確認致しました。

▽三〇日、司祭はYMCAの

お礼拝の後、教会の葡萄棚の所の草抜きを致しました。肥料の関係で、雑草が元気いっぱいに生えて来ます。この時近所の方といるお話し出来たことも感謝なことでした。ほんの少しだけ秋の背中が見えて来た北見です。

りを行いました。

一六日には一日の降雨量が二二六ミリと、観測史上第一位となる大雨(平年の八月一ヶ月に降る一・四倍の量)が降り、住宅街や田畑の広い範囲で浸水、収穫を目前に控えた農作物にも大きな被害が出ました。自然災害の厳しさの中でも、主をみそばに感じ、出来ることを一つ一つ行い過ぎていききたいです。

いつつ、祈りをおささげする。いつつ、祈りをおささげする。いつつ、祈りをおささげする。

家を、稲場家巡礼。一七日、道北分区分会、主教様陪席される。二八日、稚内での道北四教会合同礼拝、佐々木佳三、岡本俊秀両氏出席す。矢野里美さんからの義捐米を預かる、感謝。

▽旭川聖マルコ教会

第一週の主日は逝去者記念聖餐式が行われ、光明と平安をお祈りいたしました。一四日の主日は聖餐式後、午後から墓地礼拝が行われ、魂の平安をお祈りしました。二八日は「道北四教会合同礼拝」が行われ、ともに集まり祈れる事に感謝をささげました。

▽北見聖ヤコブ教会

墓地礼拝は八月七日。通常の礼拝の後、納骨堂へ行き、墓参の祈りを共に致しました。イスも三脚並び、日傘の花が咲く墓地礼拝、暑い中大変お疲れさまでした。

▽三〇日、司祭はYMCAの

お礼拝の後、教会の葡萄棚の所の草抜きを致しました。肥料の関係で、雑草が元気いっぱいに生えて来ます。この時近所の方といるお話し出来たことも感謝なことでした。ほんの少しだけ秋の背中が見えて来た北見です。

りを行いました。

一六日には一日の降雨量が二二六ミリと、観測史上第一位となる大雨(平年の八月一ヶ月に降る一・四倍の量)が降り、住宅街や田畑の広い範囲で浸水、収穫を目前に控えた農作物にも大きな被害が出ました。自然災害の厳しさの中でも、主をみそばに感じ、出来ることを一つ一つ行い過ぎていききたいです。

いつつ、祈りをおささげする。

いつつ、祈りをおささげする。いつつ、祈りをおささげする。いつつ、祈りをおささげする。